

---

愚陀佛庵通信 10-01-1

---

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

去年今年(こぞことし)・・新年の季語 ほんの数分前まで去年だったの意味。  
去年今年貫く棒の如きもの(虚子)

< 滑稽の作法 >

駄洒落からはじめよう

新玉や見覚えのある猫に会ふ(健) あら?たま! 新玉(あらたま)は新年の季語

< 八木健の 365 句 >

天道虫転倒虫となり逃る

< 俳句豆知識 >

俳句には「なにを感じたか 何を思ったかを書くただし・・  
「うれしい」とか「悲しい」と抽象表現にせず「写生」の手法を使う。  
湯気を浴ぶ雑煮の椀の蓋をとり・・と書けば お雑煮を食う喜びがでる。

< 本日の萬翠荘コンサート >

青木一男クラシックギターの調べ 午後二時から

入場無料。詳細はHP検索「ばんすいそう」でご覧になれます。

---

愚陀佛庵通信 10-01-2

---

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

白朮詣(おけらまいり) 元旦の早朝、京都祇園八坂神社で行われる神事。  
参詣人は、白朮(薬草)を加えた篝火から吉兆縄に火を移し、消えないようにぐるぐる振り回しながら家に持ち帰り、神棚の灯明や雑煮を炊く火種にした。今も、大晦日の夜のおけら詣の風習が残る。

鳥居出てにはかに暗し火縄振る(日野草城)

< 滑稽の作法 >

駄洒落は英語混じりが「意外性の可笑しさ」を醸し出す

蝉殻を脱ぎつつあればセミヌード(健)

七七をつけて フル(古)ヌードなど見たくはあらず

< 八木健の 365 句 >

深沓をギブスのやうに穿いてある・・深沓(ふかぐつ・・ブーツのこと)

< 俳句豆知識 >

「俳句には感動を描きます」・・とだけ教える指導者が多いが、「感動とはなにか」について指導されることはない。感動とは「心が動くこと」である。誰でも「これまで見たことのなかった風景」には心が動く それが感動である。

<本日の萬翠莊コンサート>

ピアノ 新望(あたらし のぞみ) 東京芸大ピアノ専攻卒業。  
第9回ペトロフピアノコンクール2位の実績。 午後2時から入場無料

---

愚陀佛庵通信 10-01-3

---

<季語の蒞蓄(うんちく)>

「屠蘇」(とそ)・「蘇(病をもたらず鬼)」を「屠(ほふ)る(葬る)」という意味からきており、つまり、一年の初めに邪気を払い無病長寿を祈り、心身ともに改まろう、ということの意味しています

とそ酌むもわらぢながらの夜明哉 (一茶)

<滑稽の作法>

暖房の効きすぎ顔のホテルなり(健)・駄洒落 ホテルは火照る を潜ませている。  
ホテルと書かずに火照る と書いたら 洒落とわからない。

<八木健の365句>

万巻の書を食ふ紙魚の無教養

<俳句豆知識>

感動には大きくわけて二種類ある。「ああ」と「ふいふい」である。

残雪の裂け目を探す落の臺(白松豊) この句は「ああ」である。

採られずに生き残りたる落の臺(健) ならば「ふいふい」である

<本日の萬翠莊>

コンサートミューズ・マンドリンアンサンブル  
ホームページは「ばんすいそう」で検索できます

---

愚陀佛庵通信 10-01-4

---

<季語の蒞蓄(うんちく)>

御降り(おさがり)・元旦もしくは三が日に降る雨や雪を、「御降り(おさがり)」と言いますが、御降りのあった年は豊穰とされており、おめでたい雨・雪なのである。季語には農業用語が多い。

御降になるらん旗の垂れ具合(漱石)

<滑稽の作法>

なつかしのお味噌が届き年の暮(健)

・謎(なぞ)かけをして 答えは書かないでおく。

答えは「おおみそか」であるが作り方としては

大晦日 おおみそか おお味噌か

< 八木健の 365 句 >

カサブランカ活けて玄関狭くする

< 山口誓子(せいし)の 365 句 >

落ち羽子(ばね)に潮のて穂先のはしりて来

< 俳句豆知識 >

子規が発句に「写生」の手法を取り入れ「俳句」と名づけた。

虚子が受け継いで「客観写生」を掲げた。

「写生は手法」なのだが多くの俳人が「俳句は写生」とだけ思い込み、100年後の今日・俳句は「見たままを書く文芸」になりさがあった。

---

愚陀佛庵通信 10-01-5

---

< 季語の蒔蓄(うんちく) >

春著(はるぎ)正月に着るために新調した衣服。正月用の晴着

誰(た)が妻とならむとすらむ春着の子 日野草城(ひのそうじょう)

< 滑稽の作法 >

新宿区渋谷区千代田区みな春めく(健)

・・「区」を春め「く」に変換したところがポイント これも駄洒落の仲間。

< 八木健の 365 句 >

煎餅を糞に加工の春の鹿 ポロポロ落とす風景が・・出ました

< 山口誓子(せいし)の 365 句 >

初釜の湯気を封ぜし鉄の蓋

俳句豆知識 >

誰にでも 記録本能はある。

旅先で感動の風景に出会うとカメラでパチリ・カメラではなくことばでパチリ

俳句はことばのスナップ写真なのです。

---

愚陀佛庵通信 10-01-6

---

< 季語の蒔蓄(うんちく) >

嫁が君(よめがきみ)正月三が日の「鼠」の呼び名である。

(忌み言葉) 嫁が君里帰りしてそれつきり(健)

< 滑稽の作法 >

呟(つぶや)いてみる・・つぶやきは正直である。

正直はそれだけで「可笑しい」

かき氷どの部分から崩さうか(健)

< 八木健の 365 句 >

秋刀魚(さんま)の解剖(かいぼう)お箸(はし)のメス揮(ふる)ひ (健)

< 山口誓子(せいし)の 365 句 >

かの巫女(みこ)の手焙(てあぶり)の手を恋ひわたる

< 俳句豆知識 >

記録本能と対をなすかたちで「表現本能」がある。

記録は再現のためにあるからである

記録したものを後日、自身も楽しみたい。

誰かに見せたい。

驚かせたい。

記録本能と表現本能は「芸術」の根っこである。

---

愚陀佛庵通信 10-01-7

---

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

人日(じんじつ) 正月七日のことをいう。

五節句のひとつ。

中国では 元日から八日までを鶏 狗 豕 羊 牛 馬 人 にあてたことによる

< 滑稽の作法 >

愛犬のおならしてあるキャンプかな 健

< 季語 >

「キャンプ」を分解し 犬が「キャン」 おならが「プ」

キャンプ・・夏の季語

< 八木健の 365 句 >

夜寒てふ季語に一枚重ね着る

< 山口誓子(せいし)の 365 句 >

寒星を見に出かならず充ち帰る

< 俳句豆知識 >

記録本能と表現本能に基づいて書かれた俳句は芸術である。

その作品には作者の精神が記録される。

俳句を書き続けることは精神史を書くことなのである。

ちなみに「日記」には出来事は書かれても「思い」は書かれない。

【お知らせ】明日 明後日 メルマガ休みます 旅行のため。

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

成人の日 戦後にできた。

国民の祝日 以前は1月15日だったが1月8日から14日までのうち月曜日に該当する日に変更された。

< 俳句豆知識 >

俳句は「詩」である。

「詩とはなにか」理屈と対極にある。

つまり非論理的なものである。

それは感じたものだからである。

考えたものではないからである。

たとえば「ポストが赤い顔して怒っている」としたらそれは「詩」である。

感じたままを書いたからである。

北風さん走りつかれてそよ風さん(河野ふうか)

< 名句鑑賞 >

まさなる空(そら)よりしだれざくらかな 富安風生(とみやすふうせい)

平仮名で書いて「しだれざくら」の柔軟性を表現するのがワザ

< 滑稽の作法 >

心に浮かんだ瞬間の正直を逃さない・・・

アイロンをかけハンカチの過去を消す(健)

ハンカチが夏の季語

< 滑稽俳句協会報から >

泡一つ放ちて金魚の答へなり(松井 勉)

金魚の答へ・・・言い過ぎないところがいいですねえ

< 八木健の365句 >

愛らしきかづらの花にへくその名 「へくそかづら」・・・

< 山口誓子の365句 >

吸入器地獄のごとく激すなり

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

お年玉 新年に贈る品物のこと。

古く室町時代には男子には馬が送られたこともある。

現在は「金銭」になっているが 元来は家族ひとりひとりに与えられる丸餅であった。

< 俳句豆知識 >

松尾芭蕉の句に 閑(しずか)さや岩にしみいる蝉の声 がある。  
俳句を説明す際には、この句が好例である。  
「蝉の声が岩にしみいりますか・・・？」そう感じたのです。  
非科学的・・・それが詩なのです。

<名句鑑賞>

花衣ぬぐやまつはる紐いろいる (杉田久女)  
花衣(はなごろも)は花見のときに着る衣装である。  
杉田久女は悲劇の俳人、句に隠された謎は田辺聖子が解き明かしている。

<滑稽の作法>

心に浮かんだことをそのまま書く。  
だから俳句は精神の記録ツールであり俳句を続けることは自らの精神史を書くということなのである。  
一刀両断大根のふくらはぎ (健)  
大根がふくらはぎに見えたということ。

<滑稽俳句協会報 から>

どこにでも慌て者をり初紅葉 (種谷良二)  
初紅葉を擬人化する技は・・・なかなかですな

<八木健の 365 句>

汗のシャツ顎のあたりでつつかえる 健

<山口誓子の 365 句>

海に鴨発砲直前かも知れず

---

愚陀佛庵通信 10-01-12

---

<季語の蘊蓄(うんちく)>

鳥総松(とぶさまつ) 門松を取り払った穴に立てておく松の枝のこと。  
その松の枝は門松に使った松。

<俳句豆知識>

ここで少し復習をしておきましょう。  
俳句は詩です。 詩は感動を描きます。 感動とは心が動くことをいいます。  
感動には二種類あります。  
それは「ああ」と「ふふふ」です。  
その感動を「写生」という方法で記録するのが俳句です。  
これが、これまでに延べたことですが、俳人の大部分は「ああ」しか書きません。  
「ふふふ」つまり「滑稽」を忘れているのです。

<名句鑑賞>

赤い椿白い椿と落ちにけり 河東碧梧桐(へきごとう)  
子規は「散り敷いたさま」と解説していますが、これは現在進行形としたほうがよろ

しい。赤 白の椿がぼたぼた 落ちているのだと・・・。

<滑稽の作法>

人間を蹴る馬のみて天高し 健

この句のところが可笑しいのか。「人間を蹴る馬」です。

季語の「天高し」は秋空の美しさです。 プラスイメージです。

「人間を蹴る馬」はマイナスイメージです。

この組み合わせは「裏切りの構成ということになります。

つまり滑稽句は裏切りの構成なのです。

この句の場合はマイナスをプラスで裏切りました。

プラスをマイナスで裏切るならば 天高し人間を蹴る馬のみて・となります。

<滑稽俳句協会報 から>

羽音だと気付いた時の蚊の勝利 山口えつこ

蚊の勝利・・・昆虫と対等の立場で作句しているのがいい。

<八木健の 365 句>

一村の事情に通じ寒鴉

<山口誓子の 365 句>

冬葬(ふゆはふり)はや散ずべきとき至る

---

愚陀佛庵通信 10-01-13

---

<季語の蒔蓄(うんちく)>

鏡餅(かがみもち) 正月に供える二個一組のもちのこと

円形扁平だが形が鏡に似ているところから、この名がついた

<俳句豆知識>

俳句と川柳の違いを説明する際に、私は「俳句はことばのスナップ写真、川柳はことばのレントゲン写真」と説明することにしている。

俳句は感動の風景を瞬間的に写しとる。川柳は本音をえぐり出すからである。

<名句鑑賞>

永き日や欠伸うつして別れ行く 夏目漱石

<滑稽の作法>

滑稽句はオーソドックスな俳句で使われる用語を意識しない。つまりこれまで誰も使ったことの無いことばを使う。

引力の平等藤の房垂れる 健

西瓜撲殺豪華客船の上甲板 健

「平等」「撲殺」などの用語は、これまで俳句に使われることは無かった。

・ ・ それだけに新鮮なのである。

<滑稽俳句協会報 から>

無造作が癖になりたる木の葉髪 (越前春生) . . . その散り方も無造作ならむ

<八木健の 365 句>

大男コガタアカイエカに悩む

<山口誓子の 365 句>

風邪の妻起きて厨に匙落す

---

愚陀佛庵通信 10-01-14

---

<季語の蘊蓄(うんちく)>

小正月 こしょうがつ 元日に始まる大正月に対していう。

1月14日の夕方から、15日 16日にわたり正月の行事をする期間をいう。

<俳句豆知識>

俳句は自然を詠み 川柳は人間を詠む . . 大雑把にこのように説明されてきた。

しかし、乱暴な分類である。

自然は詠み尽くされてしまっているから余程の発見がない限り自然だけを詠んでも新鮮な句にはならない。

だから . . . 人間をからめて詠む。

または自然を擬人化して詠む。たとえば . .

お引越スミレは移植鰻(いしょくごて)にのり 健

<名句鑑賞>

おそはるの雀のあたま焦げにけり 室生犀星

「雀の子」は春の季語。雀は成長すると羽の色が濃くなる . .

それを「焦げにけり」と表現したもので「焦げ」は誇張表現 . .

だから可らしい .

<滑稽の作法>

「可らしい」を発見することが滑稽句をつくる秘訣。

そのためには 頭をカラッポにして置く必要がある。

常識に邪魔されないようにしなければならない。

常識に対抗する発見 . . たとえば拙句の . .

丸めても畳むと言へり花筵(はなむしろ)などがそれである。

<滑稽俳句協会報 から>

煤逃げというより邪魔と追い出され (黒澤正行)

<八木健の 365 句>

木枯は送電線に来てとまる

<山口誓子の 365 句>

もがりぶえとぎれとぎれのものごたり



もがりぶえ(虎落笛)・ 虎除けの竹の杭を鳴らす強い風の呼び名 冬の季語

---

愚陀佛庵通信 10-01-15

---

<季語の蘊蓄(うんちく)>

風花(かざはな)・おそらくもっとも美しい季語だろう。  
遠くの間々見から風にのって運ばれてきた晴天にちらつく雪のこと。

<俳句豆知識>

俳句をやると「簡潔な文章」が書けるようになる。  
俳句は17音字しか使わないから「省略」の限りを尽す。  
だから文章も冗舌でなくなり「切れ味」のいいものとなる。  
私が文章を添削するとおよそ三分の一にしてしまう。  
その割りにはこのメルマガは冗舌だが

<名句鑑賞>

青蛙おのれもペンキぬりたてか (芥川龍之介)  
俳句は感性の文芸である。  
作者は脳裏をよぎった「ペンキぬりたて」をすかさず捉えて一句にした。  
「おのれも」はちかくの公園でペンキぬりたての「ベンチ」を見たからであろう。

<滑稽の作法>

一句の中にドラマがあるからこそその滑稽である。  
俳句は瞬間を描くものだからドラマの経過を描いてはならぬがドラマの結果を描くことはできる。  
拙句の・ 春愁のとどのつまりの大欠伸(あくび) がそれである。

<滑稽俳句協会報 から>

余所見してペンギン転ぶ冬日和 (田村米生)

<八木健の365句>

エジプトの首都で使ひし暖房具

<山口誓子の365句>

寒風の砂丘今日見る今日のかたち

---

愚陀佛庵通信 10-01-17

---

<季語の蘊蓄(うんちく)>

蒲団(ふとん) 冬の季語「布団」とも書く  
蒲の穂で編んだ円座が蒲団の語源 肩布団 腰布団 背布団と用途により多種

< 俳句豆知識 >

俳句を詠めると、祝電・弔電に役立つ。その季節の花や天候を使って

【祝句】

花束のやうに抱かれて天高し（鷹羽狩行）

俳句王国の司会・高橋久美子さんが、長身の米国人と結婚した際に

【弔句】

かなしみのまた寄せ返す土用波（健）

小・中・高と同級生だった柳原かなえさんの母親のご葬儀に

【祝句】

はきはきと口ごたえして入学児（健）

・ ・甥の後藤武司君が結婚する際に贈った。

小学一年になる武司君に「大きくなったら何になるんだ」

と尋ねたところ「働くのは嫌だ遊んで暮す」という返事が返ってきたのだった。

< 名句鑑賞 >

春や昔十五万石の城下哉（正岡子規）

この句を「春や昔」で切って読む方が多いが、それは間違い  
「春や」で切るのだ正しい。

春や昔・ ・では意味不明。

< 滑稽の作法 >

俳句は思ったことを書く

雲の峰芯のあたりは硬からむ（健）

中にドライアイスが入っているとしか考えられない・ ・とは非科学的である。

< 滑稽俳句協会報 から >

マスクして他人のマスク怖がれり（むつみ）

< 八木健の 365 句 >

残雪の左の脚が抜けました(そのとき右足が残雪に潜るわけ)

< 山口誓子の 365 句 >

寒巖(かんばん)を搬び行かむとして縛(ばく)す

---

愚陀佛庵通信 10-01-17

---

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

室咲 むろざき 春に咲くはずの草木の花を音質の中で冬に咲かせたものをいう。

昔は炉火むを置いた室内で・ ・今はビニールやガラス張り音質で加温加湿して・ ・。

< 俳句豆知識 >

俳句には二種類の作り方がある。

一物仕立て とりあわせ である

取り合わせは「そのもの」を詠む

炎天の野球部用の薬箱

取り合わせは 一見関係ない二つのものを組み合わせる  
泉の底に一本の匙夏了る（飯島晴子）

<名句鑑賞>

瀧の上に水現れて落ちにけり（後藤夜半 代表的写生句）である。  
飽きることなく落ち続ける瀧に自然の悠久さを思うのである。

<滑稽の作法>

「なんでもないこと」も作者の受けとめ方によっては「可笑しい」ものとなる。  
それは作者にとって「発見」だからである。  
に灯りキャンプ場（健）

<滑稽俳句協会報 から>

羨しとも河豚提灯の全き歯（山本あかね）

<八木健の 365 句>

失踪の前歴のあるかぶと虫

<山口誓子の 365 句>

探梅や遠き昔の汽車にのり

---

愚陀佛庵通信 10-01-18

---

<季語の蘊蓄(うんちく)>

懐手 ふところで 季語の中には 時代の変化で使いにくくなるものがあるが、これもそのひとつ。和服の袂(たもと)や胸もとに手を忍び込ませること、洋服の場合はポケットに手を突っこむことになるがやはり 和服の季語  
決断をしてしばらくの懐手（福永耕二）

<俳句豆知識>

「とりあわせ」について・・・  
俳句は「17音字」しかないのに「季語」と「季語とは直接の関係にない12音」の間に読者が想像する間をつくるのである。  
噴水や 戦後の男指やさし（寺田京子）  
一物仕立てならば・・・  
噴水や空へ小躍りしては落つ（斉藤石雲）

<名句鑑賞>

やれ打つな蠅は手をする足をする（小林一茶）  
俳句の歴史の中で一茶ほど全人格を句に投影した俳人はいない。  
この句はその代表的なもの。

<滑稽の作法>

「発見」こそは俳句の動機である。発見したからこそ記録しておきたい。  
それを誰かに伝えたい。

人間はことごとく敵子猫噛む（健）  
こんなに可愛がっているのに噛む・・・予想外の行動に驚いた。これが発見である。

<滑稽俳句協会報 から>  
晩年のデートはいつも日向ぼこ（渡辺さだを）  
・・・人畜無害とは情けない

<八木健の 365 句>  
春昼の仔豚十匹同じ顔

<山口誓子の 365 句>  
湯豆腐が煮ゆ角々が揺れ動き

---

愚陀佛庵通信 10-01-19

---

<季語の蘊蓄(うんちく)>  
日脚伸び ひあしのぶ 1月も半ばをすぎ、日照時間が少しずつ長くなることを実感する。それが季語になった

<俳句豆知識>  
「とりあわせ」のつくり方  
「とりあわせ」は「簡単」なようで難しい。その「難しい」を「簡単」にできるようにご説明します。  
「とりあわせ」は一見関係ないふたつのものをならべるのですが、実は地下で繋がっているのです。  
大根や真正直に生きし母  
この句の「大根」は地下で、「白い」「穢れなき」のイメージでつながりますね。

<名句鑑賞>  
おそるべき君等の乳房夏来る（西東三鬼）  
この句が「とりあわせ」です 地下で「躍動感」で繋がっています。

<滑稽の作法>  
俳句は断定します。  
虫入れて重くなりけり虫の籠  
重くなったような心地がする・・・ということなのだが「重くなりけり」と断定

<滑稽俳句協会報 から>  
地下鉄が地上を走る菊日和（渡邊美代子）

<八木健の 365 句>  
炎天に化石のさかな口ひらく

<山口誓子の 365 句>  
手袋の十本の指を深く飲みり

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

凍蝶 いてちょう 寒さのため 凍てついたように動けないでいる冬の蝶のこと

< 俳句豆知識 >

俳句の効用・・・俳句をやると人生観が変わる。

「自分には俳句がある」と思うようになる。

俳句という「詩」をつくることができる。

と思うと「名誉・地位・財産」への欲が薄れてくる。

拙句に 「俳句があればなんにもいらぬお正月」がある。

< 名句鑑賞 >

虹二重神も恋愛したまへり(津田清子)

二重の虹を見て恋人同士に見えた。そう思えたのである。

俳句は 頭に浮かんだことをそのまま書く

< 滑稽の作法 >

頭を低くして蝉時雨くぐりけり(健)

この句は誇張の「わざ」である。蝉時雨の樹間を抜けるときの動作。

それにより蝉時雨の音を描く

< 滑稽俳句協会報 から >

末端よりリストラ紅葉且つ散れり (麻生やよひ)

< 八木健の 365 句 >

雲の峰芯のあたりは固からむ

< 山口誓子の 365 句 >

火口湖が白き氷盤となれるのみ 「氷面鏡」という季語

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

冴ゆ・・・さゆ・・・冷え込むこと

冷気がこなぎりさすような寒さのあることをいう

< 俳句豆知識 >

俳句の効用・・・俳句をやると人間がやさしく、心が豊かになる

自然を凝視して、虫の命 草木の命 を詠むからである。

人間教育にも適しているからそういう意図で 学校教育に取り入れるとよいのですが、この視点での俳句教育はなされていない。

河原の痩せコスモスの咲きにけり(健)

押しあひへしあひわさび田のわさびたち(健)

< 名句鑑賞 >

摩天楼より新緑がパセリほど（鷹羽狩行） 俳人協会会長の代表句  
作者は摩天楼・エンパイヤー・ステートビルの上階にいて街路樹を眺めているのだが  
地上にいる人が見あげて詠んだと誤解した俳人もいた。

< 滑稽の作法 >

俳句は元来（俗）であった。  
芭蕉が「雅」を志向していらい（俗）が減少していまや「俗語」を使う俳人は稀となっ  
ている。  
八木健は滑稽俳句協会を設立して「俗語」の普及？に務めている。  
ひまはりのバックの空をぬりたくる（健）  
とつくりのセーター首つたけに編む（健） などがそれ

< 滑稽俳句協会報 から >

掃除機の秋思吸い込み前進す （三橋一笑）

< 八木健の 365 句 >

春愁のとどのつまりの大あくび

< 山口誓子の 365 句 >

寒庭に在る石更に省くべし

---

愚陀佛庵通信 10-01-26

---

< 季語の蘊蓄(うんちく) >

春隣 はるとなり 春がもうそこまで来ているという期待の気持ちをいう  
春信 しゅんしん とも

< 俳句豆知識 >

俳句上達の秘訣 「俳句づくりを始めました」と周囲の方に宣伝することである。  
そうすると・・・引込みがつかなくなりますからね。  
久しぶりに会って「どうかね俳句の方は？」と尋ねられて「やめました」  
とはいえなくなるからです。

< 名句鑑賞 >

まさをなる空(そら)よりしだれざくらかな 富安風生(とみやすふうせい)  
大部分を平仮名で書いて しだれざくらのしなやかさを出しています。  
色の対比も鮮やか。俳句は情景がわかることが必要条件のひとつ

< 滑稽の作法 >

童心にかえるとき滑稽句が生れます。素直な心で対象に接すれば おおかたは滑稽句と  
なります。  
お引越スレは移植鏝(こて)に載り （健）  
切り分けし西瓜の塔に種の窓 （健）

<滑稽俳句協会報 から>

朝顔やすぐに数へる癖抜けず (倉方稔)

<八木健の 365 句>

うめですかさくらですかこの裸木は

<山口誓子の 365 句>

せりせりと薄氷(うすらい)杖(つえ)のなすまに

---

近況

去る 23 日に三重県伊勢市で 三重県主催の「全国募集俳句大会」が開催されました。シンポジウムのコーディネーターを担当して およそ二時間のトークショーをくりひろげました。

その模様は、近々 三重県のホームページに(動画)で掲載されます。

パネラー 有馬朗人

俳句交流協会会長 宇多喜代子

現代俳句協会会長 星野椿 虚子の孫で「玉藻」主催 宮田正和 三重県俳句協会会長

近況

一昨日・中学時代の器楽クラブの同窓会があり参加。昨日は親友六人と昼食会  
全員が「造節全国大会(9月23日 浅草木馬亭で開催)」に参加してくれることになりました。

---

愚陀佛庵通信 10-01-27

---

<季語の蘊蓄(うんちく)>

雪女郎 ゆきじょうろ 雪国で雪の降る中に突然現れるという妖怪。

白い衣服を着た女の精という。

みちのくの雪深ければ雪女郎 (山口青邨)

<俳句豆知識>

誰でも知っているように 俳句には 季語がある 五七五 である

しかし、何故、季語があるのかの説明は難しい。

俳人は「連句の最初の句・・発句だから」というが、なぜ連句の発句に季語があるかの説明はされない。それは 連句の発句は「挨拶」の句なので「季節のことをまず言う」からなのである

<名句鑑賞>

蟻の列しづかに蝶をうかべたる (篠原梵)

この句は「蟻」の句である。「蝶」は春の季語だが この場合は夏の蝶で死んでいる。

蟻が「死んだ蝶」を運んでいる。としたら「説明」でしかない。

「蝶を浮かべ」が写生である。しづかに・・は「音がしない」ということではない。

「浮かべ方」である。羽をもちあげるに水平に保ち続ける・・・それが「しづかに」である。

<滑稽の作法>

Ｔシャツのサイズは青がＬなんです 青がＬ・・・アオガエル 夏の季語である。  
駄洒落(地口ともいう) 駄洒落は同一発音の単語を使うがこのようにアオガエル分解して同一発音をみつけるのも面白い

<滑稽俳句協会報 から>

特売の体力勝負冬の陣(鈴木 榮)  
「冬の陣」としたところが面白い。

<八木健の 365 句>

酒断ちの地藏の脇の酔芙蓉

<山口誓子の 365 句>

この家の三和土(たたき)を寒の雪照らす

---

愚陀佛庵通信 10-01-28

---

<季語の蘊蓄(うんちく)>

サッカー 一年中行われていても冬の季語である  
見直しが必要な季語のひとつか  
ラグビーはサッカーから派生したスポーツだがやはり 冬の季語

<俳句豆知識>

前回の季語の説明に出た「連句(れんく)」は高浜虚子が命名したもので元来は「俳諧の連歌」である。平安時代に貴族が短歌の会の余興として 短歌の五七五 と 七七を別の人が詠んだ。  
つぎつぎ繋げて 鎖連歌(くさりれんが) と呼ばれた。  
百ほど繋げて 百韻(ひゃくいん)と呼んだ。  
あまりにも長すぎるというので江戸時代・芭蕉の頃には 36 句になった。  
半分の 18 句では・・・半歌仙 連なる句・・・連句と呼んだ次第である

<名句鑑賞>

馬の耳動くばかりや花曇り 飯田蛇笏(いいだ だこつ)  
とりあわせの句である。とりあわせは・一見関係ないものが どこかに共通点を秘匿しているもの。この句の場合は 「長閑さ(のどかさ)」

<滑稽の作法>

なんでもないことを「仰々しく」漢字だけで書くのも可笑しい  
たとえば  
野原大学音楽学部草笛奏法研究生 (健)  
なんのことはない 草笛がうまく吹けない というだけ。

<滑稽俳句協会報 から>



敬老日口だけ達者といはれけり (有富洋二)

<八木健の 365 句>

恋猫に包囲されたる一軒家

<山口誓子の 365 句>

大根を刻む刃物の音つゞく

---

愚陀佛庵通信 10-01-29

---

<季語の蘊蓄(うんちく)>

火事(かじ) 冬は空気が乾燥して火事が起きやすい。  
一年中あるものでももっとも多く発生する時期の季語となる

<俳句豆知識>

連句は座談会みたいなもの。「式目(しきもく)」は連歌や俳諧の連歌のルールのことです。今は 俳諧の連歌とは言わず連句といますが、連句を座談会と考えると式目は実に簡単です。最初の句は挨拶だから季語を使う。座談会でも最初に「今年初めて蝶々を見つけました」などと季節の言葉を入れる。しかも・・・ここが肝心なのですが「季節の到来を喜んだ」ということです。

<名句鑑賞>

バスを待ち大路の春をうたがはず (石田波郷)  
昭和 8 年の作。当時バスは時代の先端の乗り物だった。  
大路といっても京都ではなく「神田」である。春という新しい季節の到来とバスという新しい時代の到来に胸躍る。「うたがはず」は「確信した」ということ

<滑稽の作法>

盆の窟あたりに着地風邪の神 (健)  
この句は「風邪の神」が空中を飛来してきたものという前提でつくらりている。  
風邪の神の存在は思い込みである。  
つまり俳句は思い込みを断定的に描くことで滑稽が生れるのである。

<滑稽俳句協会報 から>

人間で言ふなら後期扇風機 (山本賜)

<八木健の 365 句>

ばれるや刑事の縄を取り出せり

<山口誓子の 365 句>

夜を帰る枯野や北斗鉾立ちに

< 季語の蘆蓄(うんちく) >

風呂吹 ふろふき 大根や蕪を輪切りにして、昆布のだしで茹でたものにゴマを加えた練味噌をかけて食べる。熱くて・・・吹いて食べるさまから「風呂吹」というとも。

< 俳句豆知識 >

俳句には固有の方法がある。それは 滑稽 挨拶 即興。  
山本健吉が唱えた「俳句の三命題。戦後まもなく、仏文学者の桑原武夫が「俳句は第二芸術だ」と俳句を蔑んだ。それに対して山本が論陣を張った。  
俳人たちは山本の説に縋り付いたが、実作では三命題は忘れられている。

< 名句鑑賞 >

入学の少年母を掴む癖 (右城暮石)  
うしろぼせき 母を掴むは「母の衣服のどこかを掴む」ことだが、その省略がある種のインパクトを生んだ。

< 滑稽の作法 >

芋虫の美人にあらむ緑濃し (健)  
「気味悪い」のマイナスイメージと「美人」のプラスイメージの落差に味が味が味が可笑し生れた。この場合も一瞬、脳裏に浮かんだことを逃さぬことで句となった。

< 滑稽俳句協会報 から >

残暑かな徐々に濃くなる妻の髭(山口濤聲)

< 八木健の 365 句 >

新宿区渋谷区千代田区みな春めく

< 山口誓子の 365 句 >

水枕中を寒柝(かんたく)うち通る